

◆第5学年 学習指導案◆

「旋律と歌詞との関わりを感じ取りながら、季節の歌を味わおう」

教材：『ちいさい秋みつけた』
『冬げしき』

文京区立本郷小学校
第5学年4組 33名

1 題材の目標

- (1) 曲想及びその変化と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な範唱を聴く技能や、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付ける。
- (2) 旋律の特徴や反復、変化を歌詞と関連付けて聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くとともに、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに気を付けて日本の歌曲を聴いたり、表現を工夫したりする活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組み、季節の歌に親しむ。

2 題材について

(1) 研究主題との関連

①児童の実態から

第4学年から音楽専科が担当している。第4学年における歌曲の鑑賞の学習では『パパゲーノとパパゲーナの二重唱』で、男声と女声の声の特徴や、同じリズムで違う音から始まる旋律によるかけ合いや二重唱を聴き取り感じ取ったことを踏まえてそのよさについてまとめる学習をした。また第5学年では「花」「箱根八里」「唱歌の四季」より『雪』で、女声合唱、男声合唱、児童（同声）合唱のよさを味わう学習をした。これらの学習を通して、児童は、歌声の響きを感じ取ったりそのよさを味わったりすることができるようになった。一方、歌唱分野においては、第5学年『このぼり』では、歌詞の情景を想像し、旋律の特徴にふさわしい表現を工夫して歌う学習をした。また、『ハロー・シャイニングブルー』では、音の重なり方の違いに気付き、それぞれに合った歌い方をグループで工夫する学習をした。これらの学習を通して、歌詞から読み取ったことや旋律の特徴を基に歌い方の工夫を考えたり、思いや意図に合った表現をするための技能を身に付けたりすることができた。

しかし、鑑賞・歌唱のどちらにおいても、旋律と歌詞とを関連付けて考えたり、それを自分なりの思いや意図につなげて表現したりするまでには至っていない。

そこで本題材では、旋律と歌詞との関わりに着目して鑑賞することを通して、作詞者、作曲者、さらには演奏者の工夫に気付き、曲や演奏のよさを見いだした上で曲全体を味わって聴き、その後、鑑賞の学習で学んだことを生かして、自分なりの思いや意図をもって表現を工夫して歌う活動につなげたい。

②題材の意義から

本題材は、歌曲の鑑賞と歌唱の関連を図った題材構成とする。

まず始めに、導入で既習曲の中から季節にちなんだ歌をいくつか歌い、「春らしさ」や「夏らしさ」

を曲のどんなところから感じたかという問いから「旋律」「歌詞」に注目できるようにし、今回は旋律と歌詞との関わりを考えながら、じっくりと季節の歌を聴いたり歌ったりする学習をすることを確認する。導入部分で題材全体の学習をイメージさせることで、児童は見通しをもって鑑賞と歌唱の学習に取り組むことができるようになると思う。

その上で、第一次の鑑賞の学習に入るが、その際、鑑賞教材の『ちいさい秋みつけた』の作詞をしたサトウハチロー氏が、文京区に住んでいたことや幼い頃背中にやけどをして家にこもりがちだったこと、歌詞にうたわれている「はげの木」が今も礪川公園にあること等に触れ、この曲が文京区にゆかりの深い曲であることも伝える。

第1時では、曲を聴取し、大きく3つの部分からなることを捉える。その際、旋律と歌詞とを照らし合わせながら聴くことで、曲の構成を捉えやすくする。その後、児童の学びの状況を見取りながら、第2時では、全体で聴いたり、一人一台端末を活用して個人で繰り返し聴いたりする。これらの活動を通して、作詞者、作曲者の考えにも思いを馳せながら、旋律の上行・下行や高低と歌詞の関わり、旋律の反復・変化と歌詞の反復・変化との関わりに気付かせ、曲のよさを見いだしていく。

第3時では、前時で学習したことを踏まえて、演奏者の表現の工夫に注目しながら聴き、「歌い手がどんな表現の工夫をしているのか」を見いだす手掛かりとして、強弱や速度、発音や声の出し方等を取り上げながら、友達との考えの交流を通して聴き深めていく。最後に、今回学習したことを基に、曲全体のよさや美しさを味わいながら聴く。

第二次の歌唱の学習では、鑑賞で学んだことを生かしながら、『冬げしき』の歌詞と旋律との関わりから曲のよさを捉え、どのように歌うかについて思いや意図をもち、友達との交流を通して自分の考えを再構成しながらグループで歌い方を工夫し、斉唱をする。

以上のように、学習内容を精選し、学習の見通しをもって学習活動に取り組めるようにすることで、児童は課題を自分ごととして捉え、解決に向かえるようになると思う。また、個、グループ、全体の活動を適切に組み合わせることにより、楽しんで他者と協働しながら考えや表現を広げ深めることができ、さらには、鑑賞で学んだことを生かせるような歌唱の学習を設定することで、身に付けたことを次の学習に活かしていこうとする児童を育成することができると思う。

(2) 学習指導要領との関連

【A表現：歌唱】(1) ア・イ・ウ(ア)(イ)

【B鑑賞】ア・イ

本題材において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

ア ア 旋律

イ 反復、変化

3 教材について

●『ちいさい秋みつけた』サトウ ハチロー作詞 中田 喜直作曲 出典 教科書（教育出版）

第1・2時：演奏：NHK 東京児童合唱団 編曲：若松正司 GES-15557

令和2年度版 小学生の音楽5 （教育芸術社）

第3時：演奏：鮫島有美子 COCO 73060

演奏：米良美一 KICG-748

1957年、NHK 放送記念祭「秋の祭典」のために作られた。ホ短調4/4拍子で、 $ab a'$ の小三部形式である。旋律と歌詞との関わりという観点からみると、 a の前半は「だれかさんが」の歌詞の反復に呼応するように旋律も反復してつくられている。一方、 a の後半は「ちいさい秋」の歌詞が反復されるに伴い、旋律は跳躍しながらゆるやかな上行をたどっている。また、 b の部分は、作詞者の経験から生まれた「みつけた秋」の歌詞に合わせ、付点のリズムの旋律が繰り返されながら高-低-高という3つのフレーズの旋律から構成されている。そして再び a' の部分では、「ちいさい秋」の歌詞の反復に合わせ、3回の反復する旋律で締めくくられている。

第3時の音源としては、演奏者の工夫という観点から作品のよさを見いだすことができるように、強弱や速度、歌い方の工夫を比較聴取できる演奏を選択した。この時間は、前時に曲想と旋律、反復、変化や歌詞の内容との関わりについて理解したことを想起しながら、演奏者の強弱や速度の工夫などを感じ取る経験を通して、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く力を育成したいと考える。

●『冬げしき』文部省唱歌 出典 教科書（教育出版）

演奏：杉並児童合唱団 編曲：西崎嘉太郎 オケ編曲：岩河三郎 DCT 3563/5

令和6年度版 音楽のおくりもの5 （教育出版）

大正2年に文部省が発行した教科書「尋常小学校唱歌（五）」に掲載された。この曲は、 ヘ 長調、3/4拍子、特定の旋律の反復をもたない $A(a a') \cdot B(b a')$ の二部形式で構成され、そのうち、1・2・4フレーズは共通したリズムで作られている。また、歌詞は、簡潔な文語調で構成され、のどかな日本の冬げしき（朝、昼、夕の情景）を表現している。

本題材では、鑑賞で学習した歌詞と旋律の関わりや演奏者による表現の違いを生かして、この曲をどのように歌うかについて思いや意図をもち、友達とグループで歌ったり他のグループの表現を聴いて表現のよさを感じたりすることを通して、自分の考えを再構成しながら表現の技能も伸ばしていけるようにしたい。

4 研究主題に迫るための手立て

視点1 課題意識をもち、解決に向かっていく主体的な学びの実現

①指導の個別化、学習の個性化

○指導の個別化

児童が題材を通して学習に主体的に取り組んでいるかを継続して見取るとともに、各時間におけるAと判断される児童やCと判断されそうな児童を把握するために、座席表を活用し、必要に応じて発言や学びの過程等を記録する。その記録を次の時間や題材における指導助言に生かしていく。

○学習の個性化

鑑賞する際に、多様な聴き方（歌詞や楽譜に触れながら、手を動かす、口ずさむなど）を提示し、児童自らが選択できるようにする。また、児童が追究したい部分（1番、2番、3番のいずれか）

を選んだり、一人一台端末を利用して繰り返し曲を聴いたりすることができるようにする。

②ねらいの設定と振り返りの連動による学びの探求

学習カードを用いた振り返りの時間を毎時間設定し、1時間の学びについて児童自身が価値付けできるようにするとともに、教師からの価値付けや助言をコメントで伝え、次の時間の学習に生かせるようにする。

視点2 考えや表現を広げ深めていく対話的な活動の充実

①考えを広げ深める場の設定

学習内容に応じて、学習形態を「個→全体」「グループ（ペア）→全体」「個→グループ→全体」等と工夫し、児童が学びの広がりや深まりを実感できるようにする。

②協働する意味や目的の共有化

協働する場面における学習のねらいや活動内容を明確にし、それらに即して友達と考えを共有したり、自分の考えを再構成したりすることができるように、学習カードの内容や分量を工夫する。

視点3 学びを自覚し、積み重ねつなげていく題材構成の工夫

①身に付ける内容の焦点化と明確化

曲の分析を綿密に行い、音楽を形づくっている要素を洗い出した上で、この学習で何を身に付けさせるのかを明確にしながらか適切な内容を〔共通事項〕から精選し、曲の教材化を図る。選定した〔共通事項〕等が、鑑賞と歌唱の学習を貫く学習内容となる。

②音楽的な見方・考え方の働かせ方や深化・更新

鑑賞の学習場面において、児童が音楽の特徴を聴き取ったり感じ取ったりしやすくするために、楽譜で旋律を追いながら聴く、旋律を口ずさみながら聴く、手や体を動かしながら聴く、拡大楽譜で確認しながら聴くなど、多様な聴き方を提示する。また、学習活動を積み上げていく中で児童の音楽的な見方・考え方が自然と深まっていくように、児童の思考の流れを踏まえた展開を工夫する。さらには、児童の中に音楽的な見方・考え方をより深く定着できるようにするために、鑑賞と歌唱を関連付けて題材を構成し、鑑賞で習得したことを歌唱における表現の工夫として活用し、表現の技能へとつなげていく。




5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①知 曲想及びその変化と音楽の構造などとの関わりについて理解している。(鑑)(歌)	思①旋律の特徴や反復、変化を歌詞と関連付けて聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑)	態①曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、日本の歌曲を聴いたり、表現を工夫したりする活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。(鑑)(歌)
②技 思いや意図に合った表現をするために必要な範唱を聴く技能や、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。(歌)	思②旋律の特徴や反復、変化を歌詞と関連付けて聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌)	

6 題材の指導計画と評価計画

6 時間扱い

時	○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ T「教師の発問や価値付け」	知 技	思	態
<p><第一次のねらい>曲想及びその変化と旋律、反復、変化や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。</p>					
1	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 季節の歌を歌う。 ・ どんなどころから季節感を感じるのかを交流する。 ・ 題材全体の学習の流れを知る。 <p>○旋律を聴取する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『ちいさい秋みつけた』を聴き、聴き取ったことや感じ取ったことを交流する。 ・ 曲がいくつのまとまりでできているかを考えながら聴く。 ・ 楽譜を見ながら聴く。 ・ 楽譜と歌詞を照らし合わせながら聴く。 	<p>◇季節の歌として、「春の小川」「茶つみ」を提示する。</p> <p>T「歌ってみて、どんなどころから、春らしさや夏らしさを感じましたか」</p> <p>◇季節の歌で、特に大切にしているのは、歌詞と旋律であることをおさえる。 (視点3-①)</p> <p>T「この学習では、『旋律と歌詞との関わり』に注目しながら、季節の歌を聴いたり歌ったりしていきたいと思います」</p> <p>◇サトウハチロー氏と文京区との関係について触れる。</p> <p>T「それでは、まず一度、1番から3番まで通して聴いてみましょう」</p> <p>T「次に、旋律に気を付けながら、この曲が大きくいくつの部分からできているかを考えながら聴いてみましょう」</p> <p>◇手を動かしたり、口ずさんだりしながら聴くよう助言する。 (視点1-①)</p> <p>◇音楽が変わったと感じたところで手を挙げるよう指示する。</p> <p>◇旋律から曲の構成を確認できるよう、1番の拡大楽譜を提示する。</p> <p>◇拡大歌詞カードを楽譜に並べて提示し、歌詞のまとまりと関連付けながら、この曲が大きくaba'の3つの部分で構成されていることを捉えられるようにする。 (視点3-②)</p>			↓

	<p>○旋律と歌詞との関わりを手掛かりに、これらと曲想の変化との関わりについて理解する。</p> <p><aの部分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律と歌詞がどのように関わって、曲のどんな感じを生み出しているかを考える。 <div data-bbox="226 456 734 770" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「だれかさんがだれかさんがだれかさんが」のところは、旋律も同じように3回繰り返されているけれど、「ちいさい秋ちいさい秋ちいさい秋」のところは、旋律が繰り返されていない。 ・旋律をだんだん高く変化させて「みつけたよ」ということを強く伝えなかったのではないか。 </div> <p><bの部分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・bの部分の歌詞の内容について考える。 <div data-bbox="226 936 734 1057" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <p>1番：もずの声（聴覚） 2番：秋の風（触覚） 3番：ハゼの葉赤くて入り日色（視覚）</p> </div> <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・aの部分の作詞者や作曲者の工夫について、またbの部分の作詞者の工夫について、自分で考えたことや、友達の見解を聞いて考えたことをまとめる。 <div data-bbox="233 1456 1203 1756" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>〈 Aと判断される児童の状況 〉</p> <p>知・旋律と歌詞との関わりについて、歌詞の反復と旋律の反復、上行等の関わりについて気づき、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて考え、発言している。</p> <p>〈 Cと判断されそうな状況への手立て 〉</p> <p>知・旋律と歌詞との関わりを考える手掛かりとして、歌詞の反復に注目するよう助言する。</p> </div>	<p>T「サトウハチローさんは、どうして同じ歌詞を3回繰り返したのでしょうか」</p> <p>T「旋律と歌詞との関わりで気付いたことはありますか」</p> <p>◇aの部分全体で考えることにより、「旋律と歌詞との関わり」ということがどのようなことかを理解できるようにする。</p> <p>◇サトウハチロー氏の幼少期の頃のことについて触れる。</p> <p>T「1番、2番、3番の歌詞から、どんな秋を見つけたことが分かりますか」</p> <p>◇見つけた秋が秋の季語になっていることを確認する。</p>	 <p>① 知 発言・記述</p>	
<p>2 本 時</p>	<p>○旋律と歌詞との関わりを手掛かりに、これらと曲想の変化との関わりについて理解する。</p> <p><bの部分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・b部分を聴き、旋律の特徴について考える。 			

【予想される児童の発言】

- ・ 1 段目と 3 段目は、ほとんど旋律の高さが変わらない。
- ・ 2 段目だけ、旋律が低いところから始まって、でこぼこしている。
- ・ はずんだリズムになっている。

・ 旋律との関わりを考えてみたい歌詞を 1 番、2 番、3 番から選び、旋律と歌詞との関わりやそこから生み出される曲の感じについて考える。

・ 自分の考えを学習カードにまとめる。

・ 全体で交流する。

【予想される児童の発言】

- ・ 2 段目の旋律は、最後の歌詞のリズムが細かくなっている。最初低い音から始まっていて、その部分の歌詞は、し〜んとした感じ（1 番）、暗い感じ（2 番）、ぼわとした感じ（3 番）がする。
- ・ 3 段目の歌詞がみつけた秋で、そのことをしっかりと伝えたいから旋律も高くなっている。

・ 1～3 番まで通して聴く。

<a'の部分>

・ 反復について考える。

○学習を振り返る。

・ 本時の学習を振り返り、学習カードに記入する。

T「旋律の動きで気付いたことはありますか」

◇旋律の特徴を全体で確認したうえで、各自が「旋律と歌詞との関わり」を考えることができるようにする。

◇一人一台端末を利用して繰り返し曲を聴いたりすることができるように、必要な歌詞と音源を予め授業支援ソフトに入れておく。

（視点 1-①）

◇児童が必要に応じて情報を得ることができるようにするために、歌詞に関する資料を掲示する。

◇必要に応じて旋律を口ずさんだり歌詞を音読したりするよう助言する。 （視点 1-①）

◇児童が学びの広がりや深まりを実感できるように、机間指導をしながら指名計画を立て、意図的な指名により学習内容を深めていく。

（視点 2-①）

◇本時で学習したことを振り返ったり確かめたりしながら聴くよう促す。

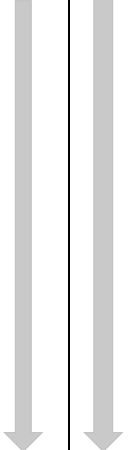
◇a の前半の部分に準拠していることを押さえる。



T「旋律と歌詞との関わりを手掛かりに、b の部分を中心に聴きました。作詞者や作曲者の工夫について考えたことや、友達の意見を聞いて考えたことをまとめましょう」

（視点 1-②）

★〈A と判断される児童の状況〉〈C と判断されそうな状況への手立て〉は本時案参照。

①
知
発
言
・
記
述

<p>3</p>	<p>○演奏表現の工夫に気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鮫島有美子、米良美一の『ちいさい秋みつけた』を聴く。 ・グループごとに端末でくり返し聴きながら、選んだ演奏者の表現の工夫や表現のよさについて考えたことを交流する。 ・それぞれの演奏者の表現の工夫について全体で交流する。 <p>○曲全体を味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ちいさい秋みつけた』の曲や演奏のよさについて、作詞者か作曲者に向けた手紙を書く。 	<p>◇前時で学習したことを踏まえながら、演奏者の立場による表現の工夫もあることに気付かせる。 (視点 3-②)</p> <p>T「今聴き取ったことや感じ取ったことを踏まえて、二人の歌手がどんなことを工夫していたか、強弱や速度、音色や歌い方などの『音楽のもと』も手掛かりにして、演奏者の具体的な工夫の中身をグループで聴き深めていきましょう。相談してどちらか一人の歌手を選んでじっくりと聴いてみてください」</p> <p>◇グループごとに一台端末で繰り返し聴くことができるように、授業支援ソフトを活用する。</p> <p>◇強弱や速度、音色、歌い方等の表現要素を手掛かりとして、「旋律と歌詞との関わり」を視点とした交流ができているかを確認する。 (視点 3-①)</p> <p>◇曲を聴いて確かめながら活動するよう助言する。</p> <p>◇強弱や速度、音色、歌い方等の表現要素を手掛かりとして、「旋律と歌詞との関わり」を視点とした交流ができているかを確認する。 (視点 3-①)</p> <p>T「それでは、最後に、これまで学習してきたことを基にして、『ちいさい秋みつけた』を通して聴き、旋律と歌詞との関わりから生み出される曲のよさや、演奏者の工夫について考えたことを、サトウハチローさんか中田喜直さんに手紙で伝えましょう」</p> <p>◇個別に一人一台端末で繰り返し聴くことができるように、授業支援ソフトを活用する。</p>			
----------	--	--	--	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙の内容を発表する。 <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の手紙の発表を聞き、新たに気付いたことやさらに考えが深まったことについて学習カードにまとめる。 	<p>◇机間指導をしながら、紹介する手紙を選んでおく。</p> <p>T「3時間の鑑賞の学習を通して考えたことや、友達の意見を聞いて考えたことをまとめましょう」 (視点1-②)</p>		<p>① 思 発 言 ・ 記 述</p>	
<p><第二次のねらい> 旋律と歌詞との関わりや反復・変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける。</p>					
<p>4</p>	<p>○旋律と歌詞との関わりを聴き取り感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『冬げしき』の歌詞を音読し、作詞者の思いを感じ取る。 ・歌詞から感じたことを交流する。 ・楽譜を見ながら範唱を聴く。 ・主旋律を歌う。 ・旋律と歌詞との関わりについて聴き取ったことや感じ取ったことを話し合い、交流する。 ・旋律と歌詞との関わりを意識して、主旋律を歌う。 	<p>◇歌詞からどのような抑揚を感じるのかを確かめるために音読をする活動を設定する。</p> <p>◇旋律、リズム、フレーズを意識できるよう、児童の意見を整理しながら板書する。</p> <p>◇拡大楽譜と拡大歌詞を並列で提示する。</p> <p>◇旋律をなぞったり、手で音の高さを表したりしながら歌い、旋律の上行・下行等に気付けるようにする。 (視点3-②)</p> <p>◇旋律の動きから作曲者がどのような工夫をしているのかを考えながら話し合うよう指示をする。 (視点2-②)</p> <p>◇交流した内容を踏まえて歌うよう助言する。</p>		<p>① 知 記 述</p>	

	<p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旋律と歌詞とのかかわり」について、歌うことを通して考えたことを書く。 				
<p>5</p>	<p>○旋律と歌詞との関わりを生かした表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を使って個人で『冬げしき』を歌い、1番・2番・3番の中から、表現の工夫をしてみたい歌詞を選択する。 ・同じ歌詞を選択した4～5名のグループで表現の工夫をする。 ・中間発表をする。 <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強弱や速度、歌い方の工夫を手掛かりとして「旋律と歌詞とのかかわり」について考えたことを書く。 	<p>◇校内のネットワークにある音源を一人一台端末で聴きながら、どの歌詞の表現を工夫してみたいかを歌いながら考えることができるようにする。</p> <p>(視点1-①)</p> <p>◇グループ活動を取り入れることにより、自分なりの表現の工夫について意見交流しやすい場をつくる。(視点2-①)</p> <p>◇作詞者、作曲者の思いを想像しながら旋律と歌詞との関わりを生かした表現の工夫を考えるよう助言する。(視点2-①)</p> <p>◇強調したい部分の歌詞はどこか、歌詞の抑揚や旋律の動きに合った強弱や速度等、聴き手に自分たちの表現の意図が伝わるように歌うよう伝える。</p> <p>(視点3-②)</p> <p>◇各グループの工夫を全体でも歌って試すようにする。</p>		<p>③</p> <p>思</p> <p>演奏</p> <p>・</p> <p>記述</p>	
<p>6</p>	<p>○第4、5時の学習を生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ発表をする。 	<p>◇表現の工夫について、よかった点や改善点について発言するよう</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・「旋律と歌詞との関わり」「それを生かした強弱の工夫」を手掛かりとして相互評価をする。 ・工夫を生かし、クラス全体で『冬げしき』を斉唱する。 <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「旋律と歌詞との関わり」に注目しながら、季節の歌を聴いたり歌ったりして、作詞者、作曲者、演奏者の立場でどのような工夫があるのかについて考えたことをまとめる。 	<p>助言する。</p> <p>◇自分たちが選んでいない箇所は各グループの工夫を生かして歌うよう助言する。</p> <p>◇作詞者、作曲者、演奏者の工夫について考えたことを、今回の学習を想起しながらまとめるよう伝える。 (視点1-②)</p>	<p>② 技 演奏</p>	<p>↓</p> <p>② 態 行動 観察 ・ 記述</p>
--	--	---	-----------------------	--

7 本時の展開

2 時間目

(1) 本時のねらい

曲想及びその変化と旋律、反復、変化や歌詞の内容との関わりについて理解する。

(2) 本時の展開

○ 学習内容 ・ 学習活動	◇ 教師の働きかけ ◆ 評価規準〈評価方法〉 T「教師の発問や価値付け」
<p>○前時の復習をする。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	<p>T「前の時間には曲の仕組みや a の部分の旋律と歌詞の関わりから生み出される曲の感じや b の歌詞の内容について学習をしました」</p> <p>T「この時間は、作曲した中田喜直さんが、サトウハチローさんがみつけた秋をどのように旋律にしたのか、作曲者の工夫について考えながら、旋律と歌詞の関わりから生み出される曲の感じを捉えて聴き深めましょう」</p>
<p>せんりつと歌詞のかかわりから生み出される曲の感じをとらえてきこう。</p>	
<p>○旋律と歌詞との関わりを手掛かりに、これらと曲想の変化との関わりについて理解する。</p> <p><b の部分></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ b の部分を聴き、旋律の特徴について考える。 <div data-bbox="159 1064 790 1276" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 段目と 3 段目は、ほとんど旋律の高さが変わらない。 ・ 2 段目だけ、旋律が低いところから始まって、でこぼこしている。 ・ 付点のリズムになっている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 旋律との関わりを考えてみたい歌詞を 1 番、2 番、3 番から選び、歌詞と旋律との関わりやそこから生み出される曲の感じについて考えながら聴く。 ・ 自分の考えを学習カードにまとめる。 <p>・ 全体で交流する。</p> <div data-bbox="159 1780 790 2016" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【予想される児童の発言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 段目の旋律は、最初低い音から始まっていて、その部分の歌詞は、「すましたおみみ」だからし～んとした感じ（1 番）、「うつろなめのいろ」だから暗い感じ（2 番）、「ぼやけたとさか」だからぼわっとした感じ（3 番）がする。 ・ 3 段目の歌詞がみつけた秋で、そのことをしっかりと伝えたいから旋律も高くなっている。 </div>	<p>T「旋律の動きで気付いたことはありますか」</p> <p>◇旋律の特徴を全体で確認したうえで、各自が「旋律と歌詞との関わり」を考えることができるようにする。</p> <p>◇一人一台端末を利用して繰り返し曲を聴くことができるように、必要な歌詞と音源を予め授業支援ソフトに入れておく。</p> <p>（視点 1-①）</p> <p>◇児童が必要に応じて情報を得ることができるようにするために、歌詞に関する資料を掲示する。</p> <p>◇必要に応じて旋律を口ずさんだり歌詞を音読したりするよう助言する。</p> <p>（視点 1-①）</p> <p>◇児童が学びの広がりや深まりを実感できるように、机間指導をしながら指名計画を立て、意図的な指名により学習内容を深めていく。</p> <p>（視点 2-①）</p>

- ・ 1～3番まで通して聴く。

<a'の部分>

- ・ 反復について考える。

【予想される児童の発言】

- ・ 最後にもう一度、ちいさい秋を見つけたよということを伝えたかったから、aの部分と同じ歌詞や旋律にしたのではないか。
- ・ aの部分と同じ歌詞や旋律が出てきて、落ち着いた感じがする。

○学習を振り返る。

- ・ 本時の学習を振り返り、学習カードに記入する。

◇本時で学習したことを振り返ったり確かめたりしながら聴くよう促す。

◇aの前半の部分に準拠していることを押さえる。

T「最初と同じような歌詞や旋律が出てくることでどんな感じがしますか」

T「旋律と歌詞との関わりを手掛かりに、bの部分を中心に聴きました。今日の学習を振り返って、作詞者や作曲者の工夫について考えたことや、友達の意見を聞いて考えたことをまとめましょう」
(視点1-②)

◆曲想と旋律、反復、変化や旋律や歌詞の内容との関わりについて理解している。①知識
(発言内容、学習カードへの記述内容)

〈Aと判断される児童の状況〉

知・旋律と歌詞との関わりについて、旋律の反復に加え、旋律の高低や付点のリズムによる旋律等に気付き、その視点から、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて考え、発言したりまとめたりしている。

〈Cと判断されそうな状況への手立て〉

知・旋律と歌詞との関わりを考える手がかりを得られるように、一緒に歌詞を口ずさみながら、手で旋律の動きを表現したり、リズムを手で打ったりするなどして聴き、旋律の高低や付点のリズムに注目するよう促す。

助言者の言葉

鑑賞と歌唱の関連を図った題材をいかに構成するかという問いからスタートした研究でした。領域・分野の関連付けを意味あるものとするためには、学習内容を貫くことはもちろんのこと、教材の関連付けが大きくものを言います。本研究では、日常生活の中で聴きなじみのある歌曲について、いくつもの音源を聴きながら楽曲分析を重ね、旋律と歌詞との関わりに焦点を絞るとともに、作詞者、作曲者、演奏者という立場から曲を理解するという鑑賞の教材開発を行いました。それが、歌唱における表現の工夫の学習との意味ある関連付けにつながったのだと思います。